

授業改善サポーター養成講座

(研修1) 令和7年10月7日 (火) 15:00-18:00 東京

(研修2) 令和7年11月04日 (火) 14:00-17:00 オンライン

(研修3) 令和7年12月01日 (月) 14:00-17:00 オンライン

講座の目標

- 授業改善サポーターとして、各種ツールを活用して授業改善のためのコンサルテーションを行うことができる
- 自校における授業コンサルテーションの普及を目指した施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる
- 授業改善サポーターとして相談し支援し合えるコミュニティを形成する

講座の流れ

研修1 事前学習

- ① 掲示板での自己紹介
- ② 授業改善活動分析レポート
- ③ 授業シラバス案の改善提案
- ④ 科目デザイン編)1モジュール

研修1(3時間,
オンサイト, 10/7)

授業改善サポータ の基礎

・演習・ディスカ
ッションを中心に

研修1 事後学習/
研修2事前学習

- ① アクションプラン
と省察レポート
 - ② 授業改善サポート
実施報告1
 - ③ 授業シラバス案の
改善提案のアップ
デート
 - ④ 科目デザイン編)1
モジュール
- *掲示板でのコミュニ
ケーション

研修2(3時間,
オンライン,
11/04)

授業改善サポータ 業務の実践と省察 (1)

・演習・ディスカ
ッションを中心に

研修2 事後学習/
研修3 事前学習

- ① アクションプラン
と省察レポート
 - ② 授業改善サポート
実施報告2
 - ③ 授業シラバス案の
改善提案の更なる
アップデート
 - ④ 科目デザイン編)1
モジュール
- *掲示板でのコミュニ
ケーション

研修3(3時間,
オンライン,
12/01)

授業改善サポータ 業務の実践と省察 (2)

・演習・ディスカ
ッションを中心に

研修3事後学習
掲示板でのコミュニ
ケーション

- ① アクションプラン
 - ② 自己評価シート
- *掲示板でのコミュニ
ケーション

研修2の流れ

研修2: 授業改善サポータの基礎

スケジュール(同期:オンライン:3時間)

時間配分	内容	ポイント
14:00-14:20	<ul style="list-style-type: none">セッション1 (グループ):アクションプランと省察	<ul style="list-style-type: none">研修2事前課題① アクションプランと省察レポートについて共有する
14:20-14:56	<ul style="list-style-type: none">セッション1 (グループ):モジュール学習を深める	<ul style="list-style-type: none">研修2事前課題④モジュールの学習の疑問点の洗い出し共有する
14:56-15:15	<ul style="list-style-type: none">セッション1 (グループ):シラバス改善	<ul style="list-style-type: none">研修2事前課題③シラバス改善をさらに検討する
15:20-15:25	<ul style="list-style-type: none">セッション2 (個人):実践報告の共有	<ul style="list-style-type: none">研修2事前課題②を使い、実際に行ったことを報告するGoogleドキュメントに個人のサマリーを記述する
15:25-16:00	<ul style="list-style-type: none">セッション2 (グループ):実践報告の共有	<ul style="list-style-type: none">研修2事前課題②を使い、実際に行ったことを報告するGoogleドキュメントを活用しグループ毎に実践を整理する
16:00-16:20	<ul style="list-style-type: none">セッション2 (全体):実践報告共有のまとめ報告と改善のための議論	<ul style="list-style-type: none">セッション2aを全体に共有、改善方法を検討
16:25-16:55	<ul style="list-style-type: none">セッション3(グループ):授業支援ツール開発の計画	<ul style="list-style-type: none">研修1事前課題②、セッション1とセッション2を受けて、グループ毎に開発するツールの企画を検討
16:55-17:00	<ul style="list-style-type: none">まとめ、リフレクションとアクションプランの構想	<ul style="list-style-type: none">本研修の振り返りをしながら、自校組織への働きかけ、個人でのアクションを、(1)授業コンサルティング普及への施策、(2)授業改善サポータ業務、(3)自身の知識・スキル開発の3項から、計画を立てる

セッション1

研修1から1ヶ月間の活動振り返り：さらなる学びと実践について

- ・モジュール教材
- ・シラバス改善
- ・アクションプランと省察

研修1から1ヶ月間の活動 振り返り

• 研修2事前課題①アクションプランと省察を
紹介する

- うまくいった事
- うまくいかなかった事
- 次はこんなことをしてみたい
- あると便利だと思うツール

など

グループ
20分
(3~4分/
人)

グループ①:	、	、	、	、
グループ②:	、	、	、	、
グループ③:	、	、	、	、

14分でアクションプランと省察

更なる学び： モジュールでの学習

- LMSのモジュール教材：<https://kyoten1a.cica.jp/moodle/?redirect=0>
- 研修2事前課題
- ④ 熊大教材で学んだことを共有
 - 新しい発見
 - 使ってみようと思うヒント
 - 今までもやっていた工夫
 - 良くわからなかった事、疑問点
 - モヤモヤする事 など

モジュールグループ

15分
+5分

グループA (モジュールB)：	、	、	、
グループB (モジュールC)：	、	、	、
グループC (モジュールA)：	、	、	、
グループD (モジュールB)：	、	、	、

15分で共有 + 5分でLMSの各掲示板にグループの代表が
「どうしても聞きたい質問」を1つ記入し投稿

更なる学び： モジュールでの学習

- LMSのモジュール教材：<https://kyoten1a.cica.jp/moodle/?redirect=0>
- 研修2事前課題
- ④ 熊大教材で学んだことを共有
 - 新しい発見
 - 使ってみようと思うヒント
 - 今までもやっていた工夫
 - 良くわからなかった事、疑問点
 - モヤモヤする事 など

講師による回答

16分
(4分/G)

LMSの掲示板に投稿された質問に対し
講師が回答、コメントします

更なる学び：シラバスの改善

<https://kyoten1a.cica.jp/moodle/course/view.php?id=96>

研修2グループ

15分
(5+10)

- 新しいグループなので、知り合いになろう
 - 自分の期待 + 同僚・上司の期待も含め自己紹介
- シラバス改善
 - さらに改善したいと考えた事
 - 新しくアドバイスしたいと思った事 など

グループ(い)：	、	、	、
グループ(ろ)：	、	、	、
グループ(は)：	、	、	、
グループ(に)：	、	、	、

5分で全員が自己紹介 + 10分でシラバス改善を共有し
研修1と1ヶ月の学習を通じて考えたことを話し合う

更なる学び：シラバスの改善

<https://kyoten1a.cica.jp/moodle/course/view.php?id=96>

講師による回答

4分

- シラバス改善
 - さらに改善したいと考えた事
 - 新しくアドバイスしたいと思った事 など

グループで出たコメントを共有
講師が必要に応じフィードバックします

セッション2

実践から改善へ

研修2事前課題②

授業改善サポート実施報告1

授業改善活動分析テンプレート

分類	活動名	誰が	誰に対して	実施する目的	期待される効果
組織的 活動	ステークホルダー 会議	執行部	学校リーダー・ 教職員・学生	現状の理解と関係 者の意見の収集	信頼とコミュニケー ションの構築
	教育プログラム評 価	執行部	学校リーダー・ 教職員	教育プログラムの 強化と弱点の特定	改善のための具体的 なエリアの特定
	戦略的計画	執行部	学校リーダー・ 教職員	改善計画の開発	長期的な改善戦略の策 定
	プロフェッショナ ルデベロップメン トワークショップ	教務部	教職員	教授スキルと評価 方法の強化	教育の質と教職員の能 力の向上
	実施サポート	コンサルタント /支援者	学校リーダー・ 教職員	提案された改善の 実施支援	持続可能な改善の実施
個人的 活動	個別のシラバス相 談	コンサルタント /支援者	教職員	シラバスの改善と 教育目標の整合	カリキュラムのクオリ ティ向上
	授業観察	コンサルタント /支援者	教職員	教授効果の評価と フィードバック	教授法の改善と学習環 境の向上

個人で 実践と関連する課題の共有



- Googleドキュメントを開く。
- グループの個人サマリーの箇所に、自身の名前を記入し、以下の項目を記入する

- 1. 実施したこと、しなかったこと**
- 2. うまくいったこと、いかなかったこと（理由も含む）**
- 3. 次の1ヶ月でしてみたいこと**
- 4. あったらいいなと思うツール、開発してみたいツール**

記入例は以下にあります。

GoogleドキュメントのURL: <https://> . . .

グループで 実践と関連する課題の共有

- Googleドキュメントを開く。
- グループの個人サマリーを共有する
- グループとして、以下を整理し、

最後の3分でフォームに記入

1. 実施したこと、しなかったこと
2. うまくいったこと、いかなかったこと（理由も含む）
3. 次の1ヶ月でしてみたいこと
4. あったらいいなと思うツール、開発してみたいツール

グループ
35分

(8分*4人+3分)

次のセッションではグループ毎に発表になるので、
発表する人、どのように発表するかを考えながら話し合ってください。

全体で 関連する課題への対応を検討

- Googleドキュメントの記入事項、
研修2事前課題② 授業改善サポート実施報告1を
共有

- メンバはどのような実践をしたのか
- 特徴的な取り組みはあるか
- 共通する問題、課題はあるか
- どのように改善できそうか

など



発表者以外の方は、Googleドキュメントに議論のメモを取ってください。

セッション3

グループで

サポートツールの開発
(研修3事前課題③)

講座の流れ

研修1 事前学習

- ① 掲示板での自己紹介
- ② 授業改善活動分析レポート
- ③ 授業シラバス案の改善提案
- ④ 科目デザイン編)1モジュール

研修1(3時間,
オンサイト, 10/7)

授業改善サポータ
の基礎
・演習・ディスカ
ッションを中心に

研修1 事後学習/
研修2事前学習

- ① アクションプラン
と省察レポート
 - ② 授業改善サポート
実施報告1
 - ③ 授業シラバス案の
改善提案のアップ
デート
 - ④ 科目デザイン編)1
モジュール
- *掲示板でのコミュニ
ケーション

研修2(3時間,
オンライン,
11/04)

授業改善サポータ
業務の実践と省察
(1)
・演習・ディスカ
ッションを中心に

研修2 事後学習/
研修3 事前学習

- ① アクションプラン
と省察レポート
 - ② 授業改善サポート
実施報告2
 - ③ 授業シラバス案の
改善提案の更なる
アップデート
 - ④ 科目デザイン編)1
モジュール
- *掲示板でのコミュニ
ケーション

研修3(3時間,
オンライン,
12/01)

授業改善サポータ
業務の実践と省察
(2)
・演習・ディスカ
ッションを中心に

研修3事後学習
掲示板でのコミュニ
ケーション

- ① アクションプラン
 - ② 自己評価シート
- *掲示板でのコミュニ
ケーション

授業改善サポータ支援ツールと手法の種類.xlsx をダウンロードしてください。

ツール/手段の種類

ツール/手段	説明	サポーターによる使用法	期待される効果
観察チェックリスト	授業の重要な要素を観察するための構造化されたリスト。	授業訪問時に、教授法を体系的に評価するために使用。	教授法の客観的評価を強化し、ターゲットとなるフィードバックと改善につながる。
フィードバックフォーム	建設的なフィードバックを提供するための標準化されたフォーム。	観察後に完成させ、構造化された、明確で実行可能なフィードバックを教師に提供。	明確なコミュニケーションを促進し、教授法のポジティブな変化を奨励する。
協力的計画ツール	Google DocsやTrelloのような共有計画のためのデジタルプラットフォーム。	レクチャープランの共同作成、リソースの共有、リアルタイムでの進捗追跡のために使用。	チームワークを促進し、教授目標の整合性を保ち、レッスンの質を向上させる。
プロフェッショナル開発ワークショップ	教授法やツールに関する構造化された研修セッション。	教育戦略、クラス管理などに関するワークショップの企画と実施。	教師のスキルを向上させ、新しい教育トレンドについて更新し、全体的な教授品質を向上させる。
ピアコーチングプログラム	教師がお互いを観察し、指導するシステム。	教師がコーチと学習者の役割を交換し、ベストプラクティスを共有し、相互支援を提供するセッションを促進する。	教師間のサポート学習環境を育成し、共有された専門的成長につながる。
教育技術ツール	インタラクティブホワイトボード、教育アプリ、eラーニングプラットフォームなどのツール。	授業に効果的に技術を統合する方法について教師を指導し、訓練する。	学生の関与を強化し、教授法を近代化する。
学生フィードバックシステム	授業に関する学生のフィードバックを収集するためのプラットフォーム。	学生のフィードバック調査を実施し、分析して、学生の視点からの洞察を得る。	学生の経験に基づいた貴重な洞察を提供し、教授法を彼らのニーズに合わせて調整する。
データ分析ソフトウェア	成績、出席状況、関与度などの教育データを分析するためのツール。	教師が改善のためのパターンや領域を特定するためにデータ分析ソフトウェアの使用を支援。	データに基づく意思決定により、教授効果の改善に対してターゲットを絞った取り組みを可能にする。
リソースライブラリ	教授材料、レクチャープラン、教育研究のコレクション。	レクチャープランの作成を支援し、触発するために幅広い教授リソースへのアクセスを提供。	アイデアや素材の豊富なソースを提供し、レッスンの多様性と深さを向上させる。
教室環境評価ツール	教室の物理的および心理的側面を評価するためのツール。	より学習に適した環境を作るために、教室のレイアウト、装飾、雰囲気の評価し、推奨を行う。	学生の集中と快適さをサポートする最適な学習環境を作り出す。

チェックリストの例

一般的な授業用(合田, 2023)一部抜粋

カテゴリ	項目	詳細	自己評価	コメント	サポート評価	コメント
授業計画と準備	明確に定義された学習目標	目標は具体的、測定可能、達成可能、関連性があり、時間的に制限されている。				
	教材の適切な準備	教材はよく準備されており、学習目標と一致している。				
	多様な教授リソースの組み込み	マルチメディア、物理的な補助具、ゲストスピーカーなど、様々なリソースを使用。				
指導の実施	説明の明瞭さと正確さ	説明は明確で簡潔、正確で、複雑な概念を理解しやすい。				
	エンゲージメントの高い教授方法の使用	グループワーク、実践的活動などのインタラクティブな方法を実施。				
	授業のペース配分	授業のペースは適切で、学生の理解と参加のための時間が確保されている。				

協調学習用(CoI)一部抜粋

試訳(合田ほか)
教授的存在感
デザインと体系化
教員は、授業の重要なトピックを明確に示した。
教員は、授業の重要なゴールを明確に示した。
教員は、授業の学習活動への参加の仕方を明確に指示した。
教員は、学習活動の重要な予定の時間や日程の枠組みを明確に示した。
ファシリテーション
学習に役立つ授業のトピックに関する意見が一致している領域や意見が不一致な領域を特定するのに、教員は支援してくれた。
思考を明確にするのに役立つ方法で、クラス全体が授業のトピックを理解出来るよう教員は支援してくれた。
教員は、クラス全体を成果に結び付く会話に引き込み参加させ続けるように支援してくれた。
教員は、私が学習するのに役立つ方法で、クラス全体をタスクに従事し続けるように支援してくれた。

サポートツールの開発

- 研修3までにツールの試作品を作ってください。チェックリストやガイドライン、専門学校用に熊大教材のアップデートなど、サポートが使えるようであればなんでも構いません。次回の発表時に、**誰が、いつ、何のために、どのように使うのか、期待される効果**は何かを説明してください。
- 早めに、役割分担、連絡方法、スケジュールなど決めてください。
- LMSの研修2の下の方にある配布資料 (<https://kyoten1a.cica.jp/moodle/course/view.php?id=105>)、IDポータル (<https://idportal.gsis.jp>)、前回配布した熊大のモジュール教材のアイディア一覧、IDチェックリストなどもご活用ください。

グループでコミュニケーションを取る方法を検討

- LINE グループを作る？
- メールでやり取りする？
- その他のツールを使う？

サポートツール開発の計画



どのようなサポートツールを
グループで開発するか、どう開発するかを決める
(研修1事前課題の授業改善活動分析レポート参照)

- グループメンバーが共通して使えるツール
- グループでの進め方を決める(コミュニケーションの取り方を含む)
- どのように、何を参考にして、どのような手順で開発するのか

など

サポートツール開発の計画 全体でイメージを共有

各グループでどのようなサポートツールを
グループで開発するか、どう開発するかを共有

全体
10分

- **誰が、いつ、何のために、
どのように使うのか、期待される効果**
- **迷っていること**

など

まとめ

次回研修までにやること

講座の流れ

研修1 事前学習

- ① 掲示板での自己紹介
- ② 授業改善活動分析レポート
- ③ 授業シラバス案の改善提案
- ④ 事前教材(熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編) 1モジュール

研修1(3時間,
オンサイト, 11/5)

演授業改善サポータの基礎

・演習・ディスカッションを中心に

研修1 事後学習/
研修2事前学習

- ① アクションプランと省察レポート
 - ② 授業改善サポート実施報告1
 - ③ 授業シラバス案の改善提案のアップデート
 - ④ 事前教材(熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編)1モジュール
- *掲示板でのコミュニケーション

研修2(3時間,
オンライン,
11/26)

授業改善サポータ業務の実践と省察(1)

・演習・ディスカッションを中心に

研修2 事後学習/
研修3 事前学習

- ① アクションプランと省察レポート
 - ② 授業改善サポート実施報告2
 - ③ サポートツールの開発
 - ④ 事前教材(熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編)1モジュール
- *掲示板でのコミュニケーション

研修3(3時間,
オンライン,
12/17)

授業改善サポータ業務の実践と省察(2)

・演習・ディスカッションを中心に

研修3事後学習
掲示板でのコミュニケーション

- ① アクションプラン
 - ② 自己評価シート
- *掲示板でのコミュニケーション

研修3までにやること

研修2 事後学習/ 研修3 事前学習

① アクションプランと省察レポート

- ・ アクションプランは研修の1週間後(11月11日)までにLMSより提出

② 授業改善サポート実施報告2

③ サポートツールの開発(グループ)

④ 科目デザイン編1モジュール

研修2の流れ

研修2: 授業改善サポータの基礎

スケジュール(同期:オンライン:3時間)

時間配分	内容	ポイント
15:00-15:15	<ul style="list-style-type: none">セッション1 (ペア):アクションプランと省察	<ul style="list-style-type: none">研修2事前課題① アクションプランと省察レポートについて共有する
15:15-15:55	<ul style="list-style-type: none">セッション1 (グループ):モジュール学習を深める	<ul style="list-style-type: none">研修2事前課題④モジュールの学習の疑問点の洗い出し共有する
15:55-16:15	<ul style="list-style-type: none">セッション1 (グループ):シラバス改善	<ul style="list-style-type: none">研修2事前課題③シラバス改善をさらに検討する
16:20-16:25	<ul style="list-style-type: none">セッション2 (個人):実践報告の共有	<ul style="list-style-type: none">研修2事前課題②を使い、実際に行ったことを報告するGoogleドキュメントに個人のサマリーを記述する
16:25-17:00	<ul style="list-style-type: none">セッション2 (グループ):実践報告の共有	<ul style="list-style-type: none">研修2事前課題②を使い、実際に行ったことを報告するGoogleドキュメントを活用しグループ毎に実践を整理する
17:00-17:20	<ul style="list-style-type: none">セッション2 (全体):実践報告共有のまとめ報告と改善のための議論	<ul style="list-style-type: none">セッション2aを全体に共有、改善方法を検討
17:25-17:55	<ul style="list-style-type: none">セッション3(グループ):授業支援ツール開発の計画	<ul style="list-style-type: none">研修1事前課題②、セッション1とセッション2を受けて、グループ毎に開発するツールの企画を検討
17:55-18:00	<ul style="list-style-type: none">まとめ、リフレクションとアクションプランの構想	<ul style="list-style-type: none">本研修の振り返りをしながら、自校組織への働きかけ、個人でのアクションを、(1)授業コンサルティング普及への施策、(2)授業改善サポータ業務、(3)自身の知識・スキル開発の3項から、計画を立てる



全体
5分

研修2

聞いておきたいこと

研修の目標

- 授業改善サポーターとして、各種ツールを活用して授業改善のためのコンサルテーションを行うことができる
- 自校における授業コンサルテーションの普及を目指した施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる
- 授業改善サポーターとして相談し支援し合えるコミュニティを形成する

連絡先